

Q 1

市販の電動工具を使った操作機能の追加は有効であると思うが、図 - 3 及び図 - 4 に示されているようにラック棒自体が損傷すると操作不能になってしまうと思います。今回の開発の中でラック棒の保護又は津波等に対する耐力のアップ等にどのように考えられているのか、御教授願います。

A 1

ラック棒及び開閉機本体が損傷する状況下では、周辺の堤防等の損傷も想定され、その状況下においても壊れないように設計するのは、過剰すぎると考えます。

東日本大震災では、計装部品が壊れても、ラック棒や開閉機本体が健全なものも多くあり、本開閉機は、ラック棒や開閉機本体が致命的な損傷を受けていないものに対し、機能を維持することを目的として設計を行っています。